

海外紹介 世界の鍼灸コミュニケーション(28)

## イタリアにおける鍼治療

カサノヴァ エマヌエラ

マッジョーレ病院、リハビリテーション科

## 要旨

イタリアでは第二次世界大戦後以来、特に1990年代において鍼治療や漢方などの東洋医学は他の代替医療と同様に次第にポピュラーなものになってきた。毎年4%のイタリア人が鍼灸治療を受けており、そしておよそ15,000人の医師が鍼治療に携わっている。法律的には医師のみが鍼治療に従事できる。医師の為の鍼灸教育は医学部卒業後4年のコースで行われる。13箇所の鍼灸学校がイタリアの主要都市に存在する。しかし、公的な専門職業組織としての鍼灸師会は未だ存在していない。

122の国立慢性疼痛センターが国民健康保険を適応できる療法として鍼治療を行っており、鍼治療の対象となる疾患は主にリウマチそして筋骨格系の障害である。

研究に関しては、数人の著名な研究者や治療者がいるが、ヨーロッパの平均的な水準には達していない。

キーワード：鍼灸、イタリア、臨床、教育、研究

## はじめに

イタリアでは、この15年の間、他の補完代替医療とともに鍼治療はとてもポピュラーなものになってきた。最近のデータによると900万人の患者が補完代替医療を受けている。その内訳はホメオパシー5.8%、マッサージ20.5%、薬用植物療法(ハーブ)10.5%、鍼治療5.8%である。

イギリス、フランス、北欧のように出版されたデータは無いが、症状及び疾患は、運動器系障害、筋骨格系の障害、アレルギー性疾患、呼吸器症状、および婦人科系疾患、神経学的障害(片頭痛、顔面神経麻痺、三叉神経痛、疼痛など)、精神的症状やストレスなどが多い<sup>1)</sup>。1999年の統計によると、過去1~2年の間に鍼治療を受けた人の割合は全国民(人口57,333千人)の2.9%であった。

さらに、1991年(2.1%)から1999年(2.9%)の間において0.8%増加していた<sup>2)</sup>。現在、イタリアの人口の4%は毎年鍼治療を受けている。

現在では、イタリア国内には約1万5千人の医師鍼灸師が存在し、そして122もの国立慢性疼痛センターで国民健康保険を適応できる療法として鍼治療を行っている。

## 鍼灸の普及

鍼灸や東洋医学的な薬物療法は、他の西洋諸国から若干遅れて第二次世界大戦後にイタリアに導入された<sup>3)</sup>。鍼灸治療は1960-1970年代に普及し始め、1980年代に拡大発展し、1990年代に医療として根付いた。鍼灸治療の先駆者や東洋医学愛好家のグループ(医師)とフランスの鍼灸学校と

の交流が行われたのがこうした普及の始まりである。フランスはその植民地であったベトナムとの関係で西ヨーロッパでは早くから鍼灸が普及し、その結果、ヨーロッパに鍼灸が普及するための牽引力を持つ重要な国だったのである。イタリアの鍼灸学校における最初の教育は1970年代に始まった。1980年代に入ると中国の鍼灸関連大学のみならず、外国の、特にイギリスの鍼灸学校と学問的、科学的協力関係が始まった。

近年、医師達の鍼治療や東洋医学への関心が高まり、鍼灸学校に入学する医師の数は著しく増加している。保健省にはCAMを管轄する専門の部局や専任の担当官はないが、立法府や保健省において鍼灸の教育や法律が次第に整備され、保健省は鍼灸の効能を認め鍼灸への研究助成金が拠出されるようになった。また、国立診療所の鍼灸外来診療部門が増加し、大学医学部卒後の鍼灸修士課程も次第に設置されるようになってきている。

#### ・ 鍼灸の教育

ヨーロッパのラテン系の国（スペイン、フランス）やイタリア、そして東ヨーロッパの一部の国では鍼灸師とは鍼灸の訓練を受けた医師を意味する<sup>3)</sup>。

イタリアの鍼灸医学の育成のコースは一般的に2種類のコースが存在する。

##### 1. 西洋リフレックス治療：経絡経穴のみを使用

し、理論面は西洋医学の概念で言い換えたものを使うコース。

##### 2. 伝統的治療：経絡経穴のみでなく、東洋医学のシステム全般を学術的に検証し有効性が明らかでない治療法を受け入れたコース。

さらに、“ 伝統的治療 ” は2つに区別することが出来る。

第二次世界大戦直後から文化大革命以前の中国やインドシナから西洋諸国へ輸出された伝統的な知識に基づいている治療法。

文化大革命後の中国の中医大学に直接に出向いてそこで吸収したものや、ヨーロッパ及び全世界の鍼灸学校に実際に行き吸収した知識に基づくもの。

1970年代及び1980年代に創立された鍼灸学校のコースは、通常3年制のコースであったが、現在はヨーロッパの標準的な鍼灸学校のコース同様に4年制のコースとして構成されている。

ほとんどのイタリアの鍼灸学校はFISA（イタリア鍼灸協会, federazione italiana delle societa' di agopuntura）に所属していて学校はイタリアの各地に分散している。（ボローニャ、バーリ、カターニア、ジェノヴァ、ミラノ、パドヴァ、パレルモ、ローマ、サレルノおよびトリノ）

コースは次の様に構成されている、（表1）

・ 4年制のコースでは360時間以上の講義と実習が行われる。毎年10月から6月まで1ヶ月に2

表1. 医師のための鍼灸学校のカリキュラム（4年コース）

一年目	中医学の理論、生理学、症候学、診断学 主な経絡、治療のための経穴の選択、中医漢方、中医栄養学 実習（10時間）、テスト
二年目	昨年への復習、西洋医学と比較された臓器の症候群、主な経絡と副次的な経絡の考究 実習（10時間）、テスト
三年目	中医倫理学、従事者の法律、東洋医学に関する研究、中医漢方、鍼灸による鎮痛、臓器・器官の診断学と臨床医学 実習（15時間）、テスト
四年目	臓器・器官の診断学と臨床医学 実習（15時間）、卒業論文

日間（通年で16日、96時間）というスケジュールで行われる。

- ・授業は東洋医学の伝統的な概念及び現代医学的な鍼灸の修得を目指す。
- ・毎年学年ごとの試験がある。
- ・卒業時には卒業論文の提出が義務づけられている。

卒業試験の結果によりイタリア鍼灸証明書（免許）がFISAによって発行される。

80年代後半から総合大学においても鍼灸治療や東洋的薬物療法などの東洋医学に関する研修コースを開設する必要性が認識されるようになり、各都市の大学医学部で医師の為の修士課程が設置されるようになった。（キエーチ、アンコーナ、パヴィーア、ブレッシア、ミラノの"Statale"及びローマの"La Sapienza"）。

国民健康保険（SSN）や地方健康保険（ASL）が医師のための鍼灸トレーニングコースに対して支援し、いくつかの鍼灸コースでは教室や臨床施設を提供した。時には地方健康保険（ASL）が短期間の鍼灸コースを直接組織し開催した。

最近バーリ、ボローニャ、ミラノ、ナポリ、ローマの鍼灸・東洋医学学校には、医師のための2年制の東洋的薬物療法のコースと、リハビリテーション医、マッサージ師そして理学療法士のための推拿や気、及び太極拳のコースも設けられた。

#### ・鍼灸臨床の実際

前述の通りイタリアでは法律の規定によって医師のみが鍼治療に従事できるが、鍼灸医師の為の職業組織（鍼灸師会）は公式には存在していない。2000年にFISAは鍼治療を行う国立病院や私立の鍼灸治療院で鍼灸治療が国民健康保険（SSN）を適用されているかどうかを調査した。その結果鍼灸治療への国民健康保険の適応にはイタリア北部や中部と南部との間に差がある事がわかった<sup>3)</sup>。多くの国立病院では国立病院附属鍼灸クリニックでのSSNの適応は90年代から始まった。これに対して、チヴィタノーヴァ、マルケ、ラベンナ、およびナポリ（外傷整形外科病院）とローマ（フォルラリーニ病院）は幸運なことに70年代から適用されていた。SSNの調査では、鍼灸治療の費用

は他の治療の費用と比較してとても安上がりなので鍼灸治療を患者が簡単に利用できる」と報告している。地方健康保険（ASL）を適応しての鍼灸治療は全患者のおよそ5%に相当する。調査によればイタリアで鍼治療を行うSSN適応の国立病院や私立病院は合わせて122箇所を上り、そこで鍼灸治療に従事している医師は261人である。

しかし鍼灸を行っている医師そして鍼灸クリニックの体系的な調査はまだ行われていないために私立の鍼灸クリニックの数ははっきりしない。医師はクリニックで鍼灸医師を標榜できないことも調査を困難にしている。イタリアでは鍼灸の専門医過程はまだないので、鍼灸医師の標榜は許されず鍼灸は普通の医院で行われることになる。鍼灸クリニックはかなり少なく、また大都市にあり、その都市の鍼灸学校と関係が深いことが多い。鍼治療の料金は30分間の施術に対しておよそ50~70ユーロとみられる。使用されている治療方法は鍼、鍼通電、棒灸、吸角、推拿マッサージ、東洋的薬物療法である。

余談になるが、1995年から1997年にかけてのイタリア、マルケ州の国立病院附属鍼灸診療所の治療データによると、鍼灸の対象となったのはリウマチ（48%）、呼吸器症状および耳鼻咽喉科疾患（34%）、精神的症状や神経学的障害（32%）、消化器系疾患（32%）、循環器系障害（27%）、泌尿器系疾患（19%）、皮膚疾患（16%）および婦人科系疾患（14%）であった。

#### ・鍼灸に対する研究

イタリアの鍼治療に関する研究は、近年活発になってきているが、ヨーロッパの平均的なレベルにはまだ達していないのが現状である。なぜならイタリアでは鍼の研究に対しての助成金がほとんど無く、働いている研究員に対しても金銭的報酬が無いままに行われていたからである。この容易でない状態にもかかわらず国内及び国際的な雑誌に論文を出版している何人かの研究者達がいる。

たとえば、Romoli M. 医師は耳鍼治療の臨床研究を行っているが、より適切な技術に関心が向けられているという点が特徴的である<sup>4)</sup>。臨床研究の知見をまとめた「耳鍼治療」（Agopuntura

Auricolare<sup>9)</sup>で耳鍼治療に関する多数のトピックスを述べているが、その独創的な耳診断は興味深い。Romoli 医師は(1)手技鑑別法、(2)電気鑑別法、(3)外耳鑑別法の3通りの方法で患者の外耳を精密に検査して鑑別法の感度や妥当性を検討し、耳介図で報告している。種々の疾患や症状について検討した結果、外耳鑑別法は特に筋骨格系障害の検査で有効である。また、慢性期の症状や愁訴を明らかにする上で他の2つの方法(手技鑑別法、電気鑑別法)より優れていると報告している。たとえば腰痛の場合外耳鑑別法では79%が鑑別できたのに対して、手技鑑別法は34%、電気鑑別法は12%にとどまった。しかしながら3つの鑑別法を組み合わせたほうが単独の鑑別法よりもより正確である事が分かり、鍼灸師は3つの方法を用いることで患者の体の不調を把握する事が出来ると書かれている。

また、Padova 大学の麻酔科に所属する Ceccherelli F. 医師は、どのような鍼が最も効果的であるかという観点からランダム化比較試験による多くの研究を行っており、鍼の特異的効果の検証に焦点が当たりがちな欧米の鍼研究シーンの中で異彩を放っている。鍼治療回数と治療効果の関係の検討<sup>6)</sup>や腰痛治療における浅刺と深刺の効果の違い<sup>7)</sup>などを検討しており、鍼灸師の立場からの研究課題に取り組んでいるところに、独創性が感じられる。中国で行った逆子の灸治療の研究が米国医師会雑誌(JAMA)に掲載され<sup>8)</sup>一躍有名になった Cardini F. 医師はイタリアでも研究をおこなっている<sup>9)</sup>が、Cardini 医師以外にも鍼灸による逆子治療の研究に取り組む研究者もいる<sup>10)</sup>。このように、イタリアの鍼灸研究はその数は少ないものの独自の貢献を行っているといえる。鍼灸に関心を持ち実践する医師が増加していることから、今後は研究の質・量ともに発展するものと考えている。

#### 参考文献

1) Casanova Emanuela, 山下仁, 津嘉山洋, 竹内良臣, 江藤文夫. ヨーロッパにおける鍼治療の現状. リハビリテーション医学 2005; 巻: ページ.

- 2) Menniti-Ippolito F et al. Use of unconventional medicine in Italy: a nation-wide survey. *Eur J Clin Pharmacol* 2002; 58 (1): 61-4.
- 3) FISA. Agopuntura, evidenze cliniche e sperimentali. Casa Editrice Ambrosiana, luglio 2000.
- 4) Romoli M, Allais G, Airola G, Benedetto C. Ear acupuncture in the control of migraine pain: selecting the right acupoints by the "needle-contact test". *Neurol Sci.* 2005 May; 26 Suppl 2: s 158-61.
- 5) Romoli M. Agopuntura Auricolare. Editore UTET, Torino 2003.
- 6) Ceccherelli F, Gagliardi G, Barbagli P, Caravello M. Correlation between the number of sessions and therapeutical effect in patients suffering from low back pain treated with acupuncture: a randomized controlled blind study. *Minerva Med.* 2003 Aug; 94(4 Suppl 1): 39-44.
- 7) Ceccherelli F, Rigoni MT, Gagliardi G, Ruzzante L. Comparison of superficial and deep acupuncture in the treatment of lumbar myofascial pain: a double-blind randomized controlled study. *Clin J Pain.* 2002 May-Jun; 18(3): 149-53.
- 8) Cardini F, Weixin H. Moxibustion for correction of breech presentation: a randomized controlled trial. *JAMA.* 1998 Nov 11; 280(18): 1580-4.
- 9) Cardini F, Lombardo P, Regalia AL, Regaldo G, Zanini A, Negri MG, Panepuccia L, Todros T. A randomised controlled trial of moxibustion for breech presentation. *BJOG.* 2005 Jun; 112(6): 743-7.
- 10) Neri I, Airola G, Contu G, Allais G, Facchinetti F, Benedetto C. Acupuncture plus moxibustion to resolve breech presentation: a randomized controlled study. *J Matern Fetal Neonatal Med.* 2004 Apr; 15(4): 247-52.



写真1 鍼灸を行っているクリニックの受付風景



Romoli M 医師



写真2 鍼は一般のクリニックで行われ西洋医学的な治療も併用される。(小児喘息に吸入を併用している)



写真3 著者のCasanova Emanuela 医師

Foreign Introduction Global Communication (28)

## The acupuncture in Italy

CASANOVA Emanuela

Maggiore Hospital. Rehabilitation Ward, Bologna

### Abstract

In Italy from the last postwar until now, especially in the 1990's, acupuncture and East Asian traditional medicine have been gradually increasing their popularity, together with other complementary and alternative medicine.

Every year 4% of Italians receive a treatment of acupuncture and the number of doctors, who are practicing as acupuncturists, are approximately 15,000. From a legal point of view, only medical doctors can practice acupuncture in Italy. The formal education in East Asian traditional medicine consists of a 4-year postgraduate course and there are 13 schools of acupuncture in the major cities of Italy. However a society of acupuncturists as a formal association of professionals does not exist at present.

Acupuncture is practiced in approximately 122 public pain centers, and the national health insurance system covers acupuncture treatment in those centers. The most common conditions treated by acupuncture are rheumatic and musculoskeletal symptoms.

Although some eminent researchers are known, the Italian level of research on acupuncture has been inferior to the European average.

*Zen Nippon Shinkyu Gakkai Zasshi (Journal of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion: JJSAM). 2006; 56(4): 656-661.*

Key words: acupuncture, Italy, practice, education, research